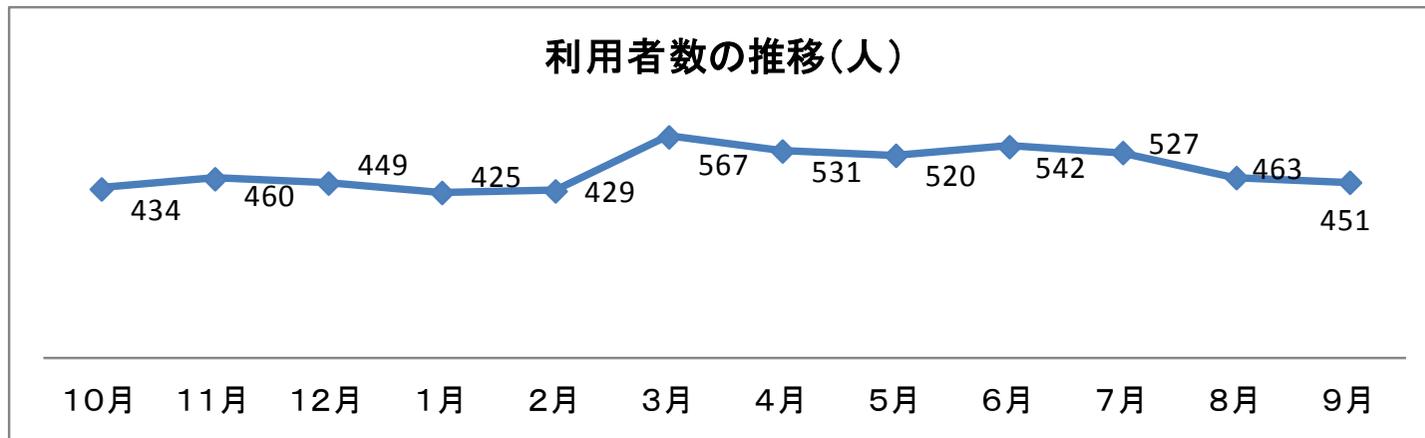


土浦駅シャトルバス実証運行実績

	運行日数			運行便数			利用者数			一便あたり利用者数			経費 円	乗客 一人 あたり 経費 円	住民 一人 あたり 経費 円	運賃 収入 円	収支 率 %
	平日	土 休 日	計	平日	土 休 日	計	平日	土 休 日	計	平日	土 休 日	計					
	日			便			人			人							
H22.10~H23. 3	119		119	1,666		1,666	2,764		2,764	1,659		1,659	5,104,168	1,846	115	1,212,300	23.7
H23. 4~H23. 9	123		123	1,722		1,722	3,034		3,034	1,761		1,761	4,621,248	1,523	104	1,330,300	28.7
H22.10~H23. 9	242		242	3,388		3,388	5,798		5,798	1,711		1,711	9,725,416	1,677	220	2,542,600	26.1



(土浦駅シャトルバス)

【現況と課題】

- 総利用者数は実証運行を実施した1年間で5,798人であり、1便あたりの利用者数は1.711人となっている。また、収支率(運賃収入÷経費)は26.1%であり、行政負担額(経費－運賃収入)は年間約7,182,000円、1便あたり2,119円となっている。
- 月間利用者数のこの1年の伸び率は4%である。
- 主な利用者は高齢者であるが、朝は通勤で利用される方、夕方は高校生の利用がみられ、また、利用者全体の約3割が乗合タクシーからの乗り継ぎで利用している。
(高校生の利用は1年間で587人(利用者全体の約10.1%))
- 利用の多い停留所は、乗合タクシーとの乗継拠点である「あじさい館」のほか、「土浦協同病院前」「土浦駅」であり、このほか「南中前」「下原」「深谷」「上原」「深谷住宅前」がコンスタントに利用されている。
- 利用者の満足度は全体的に高くなっているものの、運賃については「不満」「やや不満」が合わせて27.8%であり、「満足」「やや満足」を合わせた16.7%を上回っている。
- 土浦駅シャトルバスを利用するための改善点として、「運行ルート」「バス停」「運賃」が挙げられている。

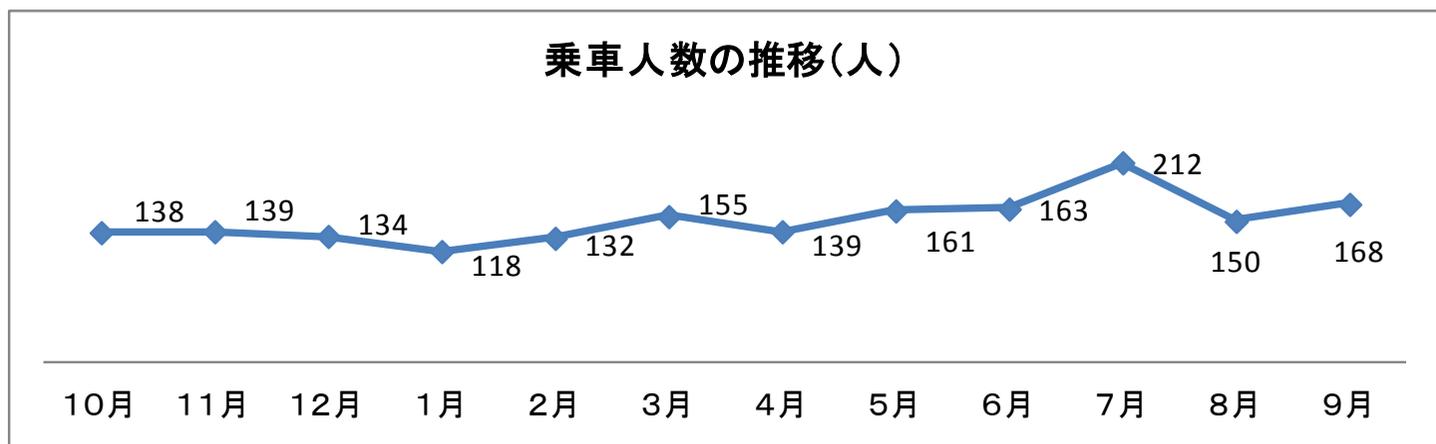
- 以上から、土浦駅シャトルバスは、利用者の満足度は高く、市が運行する他の交通機関と比較すると収支率は高くなっているものの、利用者が固定されつつあり、新規利用者の掘り起こしが必要であると考えられる。経費を抑えつつ、利用者の増加が見込める「運行ルート」や「運賃」の変更についての協議が求められる。

【見直し方針・今後の取り組み(たたき台)】

- 通勤・通学者向け定期券の導入
- 運行ルートの延長(土浦駅～霞ヶ浦庁舎・田伏)
- 〔○広域バス路線実証運行(※資料4参照)開始に伴い減便・運行廃止〕

市内観光シャトルバス実証運行実績

	運行日数			運行便数			利用者数			一便あたり利用者数			経費	乗客一人あたり経費	住民一人あたり経費	運賃収入	収支率
	平日	土休日	計	平日	土休日	計	平日	土休日	計	平日	土休日	計					
	日			便			人			人							
H22.10~H23.3	94	57	151	564	342	906	501	315	816	0.888	0.921	0.9	4,711,539	5,773	106	289,100	6.1
H23.4~H23.9	97	57	154	582	342	924	617	376	993	1.060	1.099	1.074	5,371,657	5,409	121	343,000	6.3
H22.10~H23.9	191	114	305	1,146	684	1,830	1,118	691	1,809	0.975	1.010	0.988	10,083,196	5,573	228	632,100	6.2



(市内観光シャトルバス)

【現況と課題】

- 総利用者数は実証運行を実施した1年間で1,809人であり、1便あたりの利用者数は0.988人となっている。また、収支率（運賃収入÷経費）は6.2%であり、行政負担額（経費－運賃収入）は年間約9,451,000円、1便あたり5,164円となっている。
- 月間利用者数のこの1年の伸び率は22%である。
- 利用者の最も多い停留所は「神立駅」であり、このほか「東風高校前」や「大和田」「大成」の利用が多くなっている。（アンケート結果では「あじさい館」が多くなっている。）
- 日中は高齢者の利用が多く、朝夕は高校生の利用がみられる。
（高校生の利用は1年間で516人（利用者全体の約28.5%））
- 利用者の満足度は運賃について低くなっている。
- 今後も利用意向が無い方は、市内観光シャトルバスを利用するための改善点として、「運行ルート」「運賃」を挙げているが、「改善しても利用しない」が約7割を占め、路線型であることへの不公平感や利用状況から廃止の意見が挙がっている。

- 以上から、市内観光シャトルバスは、利用者数に若干の伸びがあるものの、観光利用はほとんどみられず、PR強化など公共交通利用を促すソフト事業の実施が必要であると考えられる。また、東風高校への通学や神立駅への交通手段としての利用が主であり、これらについては民間の路線バスやデマンド型乗合タクシーで代用が可能であるため、抜本的な運行見直しが必要であると考えられる。

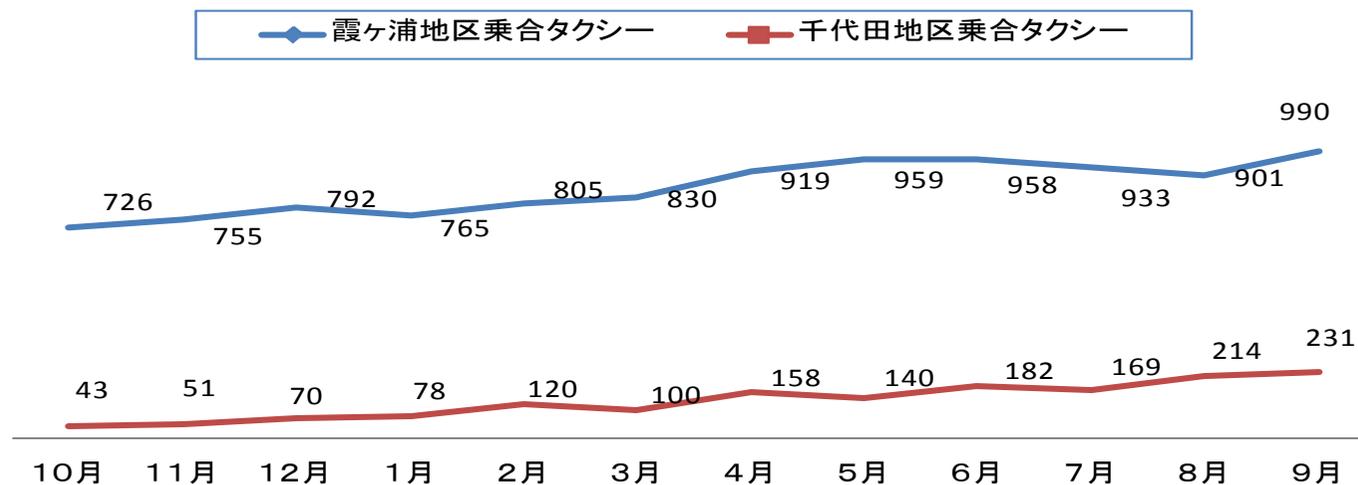
【見直し方針・今後の取り組み（たたき台）】

- 曜日毎に運行ルート・運行時刻等を設定
（運行目的である「観光客の利便性向上」と「日常的な生活交通の確保」による）
- 乗合タクシーの機能充実を図ることにより運行を廃止
（シャトルバスは市域外への移動手段（土浦駅シャトル1台体制）とする）

デマンド型乗合タクシー実証運行実績

		運行日数			運行便数			利用者数			一便あたり利用者数			経費 円	乗客 一人 あたり 経費 円	住民 一人 あたり 経費 円	運賃 収入 円	収支 率 %
		平日	土 休 日	計	平日	土 休 日	計	平日	土 休 日	計	平日	土 休 日	計					
		日	便	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人					
霞ヶ浦	H22.10～H23.3	119	57	176	1,904	456	2,360	4,144	529	4,673	2.176	1.160	1.98	13,749,975	2,942	311	1,485,900	10.8
	H23.4～H23.9	123	57	180	1,968	456	2,424	5,176	484	5,660	2.630	1.061	2.334	13,957,350	2,465	316	1,590,800	11.3
	H22.10～H23.9	242	114	356	3,872	912	4,784	9,320	1,013	10,333	2.407	1.110	2.159	27,707,325	2,681	628	3,076,700	11.1
千代田	H22.10～H23.3	119	57	176	952	228	1,180	356	106	462	0.373	0.464	0.391	7,373,325	15,959	167	204,600	2.7
	H23.4～H23.9	123	57	180	984	228	1,212	962	132	1,094	0.977	0.578	0.902	7,422,780	6,784	168	363,000	4.8
	H22.10～H23.9	242	114	356	1,936	456	2,392	1,318	238	1,556	0.680	0.521	0.650	14,796,105	9,509	335	567,600	3.8
両地区	H22.10～H23.3	119	57	176	2,856	684	3,540	4,500	635	5,135	1.575	0.928	1.450	21,123,300	4,113	479	1,690,500	8.0
	H23.4～H23.9	123	57	180	2,952	684	3,636	6,138	616	6,754	2.079	0.900	1.857	21,380,130	3,165	484	1,953,800	9.1
	H22.10～H23.9	242	114	356	5,808	1,368	7,176	10,638	1,251	11,889	1,831	0.914	1.656	42,503,430	3,575	964	3,644,300	8.5

乗車人数の推移(人)



(デマンド型乗合タクシー)

【現況と課題】

- 総利用者数は実証運行を実施した1年間で11,889人、1便あたりの利用者数は1.656人となっている。また、収支率(運賃収入÷経費)は8.5%であり、行政負担額(経費－運賃収入)は年間約38,859,130円、1便あたり5,415円となっている。運行区域別にみても、霞ヶ浦地区では、年間利用者数10,333人、1便あたり利用者数2.159人、収支率11.1%であり、行政負担額は24,630,625円、1便あたり5,148円となっている。千代田地区では、年間利用者数1,556人、1便あたり利用者数0.650人、収支率3.8%であり、行政負担額は14,228,505円、1便あたり5,948円となっている。
- 月間利用者数のこの1年の伸び率は、全体で58%であり、運行区域別では、霞ヶ浦地区36%、千代田地区437%である。
- 主な利用者は高齢者で、利用の多い乗降所は「あじさい館」や「神立駅」「神立病院」であり、千代田地区では、「菊池整形外科クリニック」や「大塚整骨院」「千代田ショッピングモール」の利用も多くなっている。
- 利用者の満足度は、運行時刻や運行路線について低くなっている。
- 運行システムが十分に周知、理解されていない。

- 以上から、デマンド型乗合タクシーは、周知拡大に伴い今後も利用者数の増加が期待される場所であるものの、運行経費・行政負担額の削減が必要であると考えられ、より効率的な運行体制、安定的な運営につながる体制の確立についての協議が求められる。

【見直し方針・今後の取り組み(たたき台)】

- 1日乗車券の導入
- 土休日の運行見直し
- 運行事業者の営業努力等を反映させた委託システムへの転換
- 自治会や商店街、観光施設、地元企業とのタイアップ等による利用促進や協賛金制度の導入